

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項	本年度の反省と来年度に向けての改善策	本年度評価 (ABC)
本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上と確かな学力の定着 ・望ましい学習習慣、生活習慣の確立 ・帰属意識と自己有用感の涵養 ・キャリア教育の一層の充実 ・教職員が健康的に教育活動に従事できる環境の整備 				
防災・減災 P T A活動 (総務部)	防災意識の向上	防災・減災に関する実践的活動を行うとともに、年間を通じて防災・減災の方法を考えさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる災害の状況を想定して、自分の命を守るようとする意識を育成する。 ・「防災だより」を発行し、災害時のみならず、日ごろから継続して防災・減災に取り組む意識を育てる。 	4月に予定していた火災を想定した避難訓練は実施できず、実践的な訓練としての避難経路の確認が9月になってしまった。激甚災害を想定した避難訓練の際には地区別に分かれ、帰宅における留意点を確認した。また、防災だよりを年間4回発行し、日常生活における災害防止を意識させてきた。今後は、定期的に防災だよりを発行し、内容もより充実したものにしていきたい。	B
	P T Aとの連携強化	学校における諸活動に対して、P T Aとの連携を密にして、積極的な活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が家庭と連携し、P T Aの積極的な活動により、生徒の育成に寄与できるように配慮する。 ・学校に関する現状について理解を得るために、ホームページ、きずなネットを活用し、情報発信を行う。 	P T A活動が大幅に制限され、十分な連携をとることができなかった一年であった。今後は、これまでの活動を基礎として、活動可能な方法を工夫していきたい。また、本年度のような状況下においては、家庭への情報発信を行い、連携の一助としていきたい。	C
学習指導 (教務部)	確かな学力の育成を目指すための授業改善	成績不振者に対して、教科・学年と連携し、生徒の学習段階に応じて明確な到達度目標を設定させ、組織的な指導をすすめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力の育成を目指し、授業・行事等の生徒の学びの場面の工夫をすすめる。さらに学びに向かう力の育成へも重点を置き日々研鑽に努める。 	家庭学習の習慣化のため、授業の復習になるレベルの宿題の提示を心掛け、やり切らせる指導に加え、今後も根気強く生徒に働きかける必要がある。教科・学年と連携していきたい。生徒の活動を取り入れた授業内容について、教員個人の工夫に留まっているので、教科で共有化して活用できるよう検討したい。	B
生徒指導 (生徒指導部)	S N Sでのトラブル防止	S N Sの使い方講座を実施するとともに、日常生活におけるスマホ依存について注意喚起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活での携帯電話、スマートフォン指導について全教職員でマナー指導を徹底する。 ・S N Sでの正しい使い方、危険性を理解させるための指導を図り、学年や他分掌とも連携してトラブルの防止に努める。 	携帯電話・スマートフォンに関する規定の見直しを図り、全教職員でマナー指導を行うことができた。また、学年や他の分掌と連携し、S N Sトラブルに適切に対処することができた。ネット上から実生活までのトラブル防止に向けて、啓発活動を引き続き行っていきたい。	B
	安全・安心についての実践力の向上	事件、事故、災害に巻き込まれないための心構え、危機意識の醸成を図り、安全行動を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と周りの人の命を大切にすることについて理解を深めさせ、学校行事、全体集会等において啓発を行う。 ・安全な生活を送れるようリスクマネジメントを心掛けさせ、危険予測、危険回避についての意識向上を図る。 	毎朝の登校指導で、自転車マナーや交通安全について声掛けを行ったが、交通事故件数が多かった。(被害22件・加害0件) 来年度は生活委員の活用を図り、交通事故情報の提供やハザードマップの作製など交通安全についての意識向上に努めたい。	C
生徒会活動 (生徒会部)	目標を理解し協働的に取り組むことのできる生徒会行事の実施	学校行事を通して、キャリア教育を充実させ、生徒の主体性を伸ばす。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実のため、生徒個々がその目的を理解できるよう「キャリアを積むこと」「主体性を育む場であること」を強く意識した指導に努める。 ・生徒の状況を十分に理解し、過去の問題点の集約と再検討を重ね、各行事を最適化する。 	年間行事計画の変更に対応しながら、実施内容の変更を検討した。その中でも可能な限り協働的に学べるようにするための協議を重ねたが、十分なものとはなっていない。今年度の経験を活かし、感染症対策と最適な学校行事の在り方をより多くの意見を取り入れながら検討する。	B
	安全で安心な生徒会活動 (各種学校行事・部活動等) の在り方について、生徒が考える時間を積極的に設ける。	安全で安心な生徒会活動 (各種学校行事・部活動等) の在り方について、生徒が考える時間を積極的に設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安心と安全を確保するために、保健厚生や総務をはじめ、各分掌と十分な連携を図り、その在り方を多角的に検討を重ねる。 ・「きずなネット」を有効活用し、保護者の学校理解が深まるように努める。 ・本校のガイドラインに照らして健全な部活動運営を模索する。 	各部活動の特性を踏まえた感染症対策の実施は難しいものであった。関係各署からの指導方針についての情報収集と、他校の状況の把握を的確に進める必要性を感じた。次年度はこれまで以上に各部活動顧問からの情報を共有できるよう日頃の対話を大切に、常に変化する状況を踏まえ、生徒の安心と安全の確保に努めていく。	B
教育相談 (教育相談部)	問題を抱える生徒の早期発見と個々の生徒に対する適切な対応	教育相談小委員会等での情報交換、各学年団との連携、保健厚生部と連携し支援体制を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を抱える生徒の具体的な支援のあり方を検討する。 ・生徒の情報を教員が適切に共有し、他の関係部署やスクールカウンセラー、さらに必要に応じてスクールソーシャルワーカーや外部の専門機関や医療機関などとも連携して支援にあたる。 	「心の健康調査」アンケートの結果を比較分析し、生徒のおかれている状況の把握に努め、適切な対応をするよう心掛けた。また担任、学年団からの情報により、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、外部の関係部署との連携した支援を行った。本年度は教育相談小委員会を定期的に開催し、学年間でも生徒に関する情報が共有された。	B
	教職員の連携と協力体制の構築とコミュニケーション能力の向上	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外部の専門機関を活用した教員研修の機会を設け、参加の促進をはかる。教職員に向けて、さまざまな機会を通じ、情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の研修の機会を設ける。 ・常日頃から学校教育全般において、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや外部の専門家・機関などによる支援の充実を図る。 ・教職員が健康的に教育活動に従事できるよう、環境の整備にも意識して取り組む。 	本年度は特に不登校の状況の生徒が数多くみられ、外部の専門機関に生徒のみならず保護者への対応も協力していただいた。今後も学校だけでは対応困難なケースが予想されるので、より密接に連携して対応したい。来年度は本年度実施することが出来なかった教員研修の機会を、関係分掌とも相談し、実施できるように調整したい。	B
保健・清掃指導 (保健厚生部)	健康的な生徒の育成と快適な環境づくり	学校全体で相談活動をスムーズに行える体制を作る。(校内の他分掌との連携だけでなく、S CやS S Wと連携し問題解決にあたる)	<ul style="list-style-type: none"> ・他分掌、他職員との情報交換の機会を増やし、情報の共有化を図る。 ・部会と教育相談小委員会での情報交換を行い、生徒の抱える問題等の早期発見に努める。 	保健室頻回入室者やメンタルの不調での入室者を担任や他分掌に繋ぎ協力して対応するよう心掛けたが、思うように進まない場面もあった。教育相談小委員会では情報共有が出来た。まずは、生徒や職員が相談しやすい環境づくりを図っていきたい。	C

		様々な災害発生時における組織的な対応への体制づくりと備えを行う。	<ul style="list-style-type: none"> 健康観察の方法を検討し、心身の不調や感染症の早期発見・早期対応に努める。 保健だより等で、感染症流行時や自然災害時の対応等について、情報提供を行う。 本校が抱える問題点等をまとめ、不足物資の整備をできるところから行う。 	健康観察の方法を見直し、早期に不調者を把握し、それを基に関係職員と連携が取れるようになった。次年度はさらに効果的な活用を目指していきたい。健康状態の記録個人票の裏面を用い毎月感染症の情報提供を行った。物資整備は感染症関連が中心となった一年であった。	B
		環境についての関心を高め、安全対策、美化整備を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校が安全に安心して生活できる場所にするため、定期的に校内各所の点検を実施し、修繕修理に努め快適な環境づくりに取り組む。 行事や委員会を通して、ごみの減量化とごみの分別について意識向上を図る。 	月1回の安全点検や巡回点検で修繕必要箇所が増加傾向にあり、学校全体が老朽化していると感じた。今年度はコロナの影響で予算も限られ、修理修繕が思うように進まなかった。教室内のごみ箱を3種類から7種類に細分化したことで、生徒への意識づけができた。次年度はごみの減量化に取り組む。	B
進路指導 (進路指導部)	キャリア教育の実践強化と職業観と勤労観の向上とライフデザインの作成能力の育成	学年に応じた進路の意識付けに向け、進路希望調査やガイダンス、進路資料の提供、保護者会等様々な場面で進路意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査と担任面談による情報の共有を図り、進路実現の支援に努める。 進路ガイダンスによる進路意識向上と進路実現に必要な条件を目標にさせ、様々な学校生活に対し実践的に取り組めることを行う。 挨拶や言葉遣い、身だしなみに気を遣うことができるように声掛けによる意識の向上を図る。 	進路希望調査と担任面談による情報共有は進路実現の支援に役立った。進路ガイダンスは高校卒業後の進路を考えさせる良い機会となった。また、学校生活を前向きに過ごす機運になった。コロナ禍であっても、挨拶や言葉遣い等にきちんと取り組めることができた。将来必要な資質であり、継続して取り組んでいきたい。	B
	進路実現に向けた支援の充実	生徒個々の進路希望に応じた進路情報の提供や相談、学年との連携を進め、進路実現を進める。また、進路実現後の学校生活の充実を図り、卒業前の学習活動と事前の準備を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現を支援できる体制を、生徒・保護者・学年と連携を深め、進路目標とその準備、合格とその後の事後指導に至るまで自覚を持たせて取り組むことができるように努める。 卒業後の生活を速やかに取り組めるように生徒個々の相談に応じ、合格後の学校生活を積極的に取り組むことができるように支援する。 	コロナウィルス感染拡大防止策に伴い、進路支援の縮小や変更があった。限られた中で、学年と連携してできることを進めていくことができた。進路決定後の学校生活は例年と比較して短くなった。その中で与えられた課題にしっかり取り組むことができた。更に多様化する進路支援に対し、学年と連携して進めていきたい。	B
図書館活動 (図書部)	読書の楽しさ、大切さを生徒に伝え、読書習慣につなげる。	読書に興味、関心を持ってもらえるよう生徒に働きかける。また、図書館に来てくれた生徒が再び足を向けたくなるような工夫をする。	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だよりの内容を検討し、読書への興味を引き出せるよう工夫する。 新刊本の展示を充実させ、生徒が図書館に足を運びたい環境を作る。 図書選定にあたって、より多くの生徒から意見を集約できるようにする。 	図書の貸し出しなど、基本的な業務は維持したものの、新型コロナの影響で図書館の利用を積極的に勧めることができず、生徒図書委員会の活動も制限されたものになってしまった。来年度も様子を見ながらではあるが、読書に興味を持たせる活動を進めていきたい。	B
情報管理・情報発信 (教育情報部)	個人情報の管理	個人情報に関するコンプライアンスを徹底させる。	<ul style="list-style-type: none"> 愛知県情報セキュリティポリシーに基づき、教職員に暗号化・パスワード設定を徹底する。 セキュリティ意識を高める働きかけをすると共に、個別に先生方のセキュリティ状況を確認する。 	ファイル無害化中継システムで校務系に移動できない大容量の写真や動画のデータを保存するため、教育系にNASを接続して共有できるようにした。ロイノートやスタディサブリのアカウントを発行したが、パスワードを忘れる生徒の問い合わせが毎日のようにあるので、来年度は生徒のパスワードの管理をしっかりさせたい。	B
	情報化の推進	ホームページの活用や校務支援システムの利用を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 各担当者がホームページの情報を更新できるようサポートする。 各担当者が校務支援システムを本格運用できるようマニュアルを整備する。 	臨時休校中、生徒・保護者・地域への情報発信としてホームページを活用することができた。校務支援システムを本格運用したが、利用する機能を理解できていないために各分掌で行う設定の移行が不十分であった。来年度は、分掌が設定すべき項目は、それぞれの分掌で設定できるように説明をしていきたい。	B
商業教育 (商業科)	生徒が商業科の学びを地域社会に生かすことのできる授業改善・授業研究の促進	地域の人的・物的資源を活用する実践的な学習を推進するとともに、生徒が地域産業の活性化を牽引するための素養を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> 東三河地域の会社、市役所、商工会議所など地域の人材活用バンクなどを通じ外部講師を招聘する。 卒業生より高度資格取得のメリットや取り組む姿勢を在校生に伝える機会を作る。 	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外部講師の招聘や卒業生を呼ぶことは年度当初の計画より少なかった。豊橋市役所産業部農業企画課の道の駅とのプロジェクト学習及びアピタでの販売実習については継続していく予定である。今後も感染状況を鑑み、地域と関わる授業を展開していきたい。	B
総合ビジネス科	大学生同等の workforce と人間力を兼ね備えたリーダーシップの育成	主体的な学びの授業展開の中で、チャレンジ精神を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 失敗に伴う不安をなくすため、チームで課題解決に取り組みせ、肯定的な助言を行う。 各授業で得た知識を、実践的・体験的な学習活動を通して率先して行動にできるように働きかける。 	「リーダーシップの育成」に関して、一部の生徒の成長は感じられた。来年度に向けて、積極的にリーダーシップをとるための場を与えていき、意識付けをさせていきたい。そのためには、肯定的な助言を行い、授業の雰囲気づくりを大切にしていきたい。	B
		ビジネスに必要なコミュニケーションスキルを理解させ、実践させる。	<ul style="list-style-type: none"> 企業の方や大学の講師の方からコミュニケーションの原理原則を学び、課題解決や目標達成のために役立てる。 発表の際には、伝え方と同様に「聴く」ことの大切さを伝える。 授業の中でも報・連・相の重要性を伝え徹底させる。 	3年生の「課題研究」では、ビジネスに携わる様々な方から課題解決や目標達成のための助言を頂いた。生徒は興味を持って聴くことができ、コミュニケーションの重要性を理解し、グループワークなどで活かすことができた。また、販売実習など外部での実践を通して、生徒の生き生きとした姿が見られ、今後も継続していきたい。	B
	情報処理科	情報活用能力を備え創造性に富む人材の育成	AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ等の知識を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を活用し国家資格取得体制を整えるとともに資格取得と実務を関連付ける。 習熟度別授業を展開し、きめ細やかな指導を行う。 専門学校等と連携し授業改善に努める。 	コロナ禍の影響により外部講師の依頼ができなかった。そのため急遽講座の中身を変更し、本校教員で対応できる展開とした。授業方法の工夫により、生徒の理解力を高めることができた。今回の取り組みから、日々の授業においてもいかに生徒の力を伸ばすか、授業研究を重ねていきたい。
		論理的思考力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 問題発見から解決を意識したプログラミング教育を行う。 	STEM教育に取り組み、小中学生にプログラミングの魅力を伝える活動を通して、本校生徒の	B

			<ul style="list-style-type: none"> 問題解決にコンピュータを活用し科学的に理解させる。 大学、地域、企業と連携しシビックテックによる地域創生を行う。 	<p>論理的思考力を高めることができた。またコンピュータを活用することで机上の授業では理解できなかった生徒が、興味関心を持つことができた。来年度は学科全体で取り組みたい。また地域企業との連携を行い発展的な学習を行いたい。</p>	
国際ビジネス科	グローバルビジネスで活躍できる人材育成	異文化や多様性を理解し、地球規模で経済を捉える力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 異文化を理解し論理的思考力を持たせるための授業改善を行う。 新聞やニュースなどを活用し、世界情勢から地域のビジネスの課題を考える機会を設ける。 	<p>本年度は休校による進度の遅れやソーシャルディスタンスに配慮した授業展開など、まずは授業改善の必要性に迫られた年であった。新聞のスクラップや課題研究の授業などを通して、ビジネスの課題を考える機会を設けた。</p>	B
		英語を活用し、実務で活かすことのできる能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 英語科、ALTとの連携を深める。 生徒が主体的に外国語力の向上に努め、積極的にコミュニケーションが取れるような働きかけを行う。 	<p>スピーチや各種英語検定試験に積極的に取り組ませることにより、英語を通じたコミュニケーションの重要性は理解できている。しかし聞き取ることはできても、自ら相手に伝える力が不足している。</p>	B
経理科	簿記会計の役割を理解しその能力を活用できる人材の育成	簿記会計の役割を理解し、職業人としての倫理観をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> 検定重視の指導だけでなく、実務での役割を理解する授業を展開していく。 実務に即した簿記会計の活用のため地域人材や卒業生を講師として招聘する。 	<p>授業時数の減少により授業内容を進めることで精一杯であり、実務的な授業展開ができていない。3年生の「財務会計Ⅱ」「管理会計」で予定していた地域人材による講習会も新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。</p>	B
		自ら課題を発見し、課題解決のために主体的かつ協働的に取り組ませる。	<ul style="list-style-type: none"> 経理科で設定している科目全てにおいて自己の現状を分析し目的や課題を明らかにすること、また、課題解決に向けたプロセスを明らかにするための指導を行う。 	<p>「課題研究」の授業を中心に課題の分析から解決に向けたプロセスを展開することはできた。3年生の「課題研究」では発表会をzoomで実施した。各講座が遠隔地の相手にどのように伝えるか課題を設定して解決できていた。</p>	B
第1学年 (1年学年会)	基本的な生活習慣と挨拶の確立 基礎学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 欠席、遅刻を極力減らすクラス経営 報告、連絡、相談の徹底 身だしなみ指導や挨拶指導 STによる1分間スピーチ 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻、欠席をなるべくしないで、毎日元気よく登校させる。 欠席や遅刻の連絡、忘れ物などの報告やその対応の相談をしっかりと行わせる。 校則の身だしなみをしっかりと整えさせ、元気に挨拶できるよう指導する。 コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する。 	<p>体調不良や頭痛などにより学年全体で欠席が増えてしまった。体調管理をしっかりと行わせていきたい。また、挨拶が自発的にできる生徒が当初少なく、時間が経つにつれ増えてはいたが、今後も挨拶指導を継続していきたい。1分間スピーチをSTの時間で行わせたが、プレゼンテーション能力を向上させるために、より内容を吟味させていきたい。</p>	B
		<ul style="list-style-type: none"> 目標を設定し、それに向かい努力させる指導 授業外学習習慣の確立 定期考査における上位層の意識向上と下位層の底上げ 読書の機会作成 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に目標を持たせ、日々の授業や定期考査に取り組ませる。 各教科の課題を整理、または依頼し、授業外学習習慣を確立させる。 定期考査において下位層指導だけでなく、上位層のモチベーションを向上させる指導を行う。 	<p>学習習慣を確立させるためには、各教科との連携がより必要だと感じた。また、連続して成績不振を取ってしまう生徒も多く、成績不振者を指導していくためには、長期的に指導をしていかないと成果がでにくいことも感じた。成績上位層の指導が今年はあまりできなかったため、来年度は取り組んでいきたい。</p>	B
第2学年 (2年学年会)	自主的・主体的に行動する態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒による「朝の連絡」の実施 1分間スピーチの実施 HR役員・係の役割の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が朝の連絡と1分間スピーチを行えるよう、教員の指導体制を整える。 1分間スピーチを用いて、生徒各自の問題意識に基づいた課題設定と、課題に対する行動を発表する機会を設ける。 各役員・係のすべきことを明確にして生徒へ示すとともに、分掌・教科の関連性を整理し、分掌が各クラスの役員を動かす体制を作る。 	<p>全てのクラスで生徒による朝の連絡と1分間スピーチを実施することができた。自らテーマを決め、スピーチの方法も工夫するなど主体的な姿が見られ始めた。問題意識に基づいた課題設定と行動についての発表は実施できなかったが、来年度の進路が決定した頃には実施できるよう準備していきたい。仕事の少ない係については各担任が仕事を与え、それぞれの係がクラス運営に関わることもできた。</p>	B
		<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣の確立 読書習慣の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 成績が振るわない生徒に対し、具体的な目標設定から日々の学習活動までをサポートする指導を行い、その中で家庭学習を意識させる。 卒業後の進路を強く意識させ、具体的な成績目標と、日々の学習面での行動目標を設定する。 年間で読んだ本を記録していく仕組みを作るとともに、読書に関する1分間スピーチを行う機会を設ける。 	<p>進路希望調査等を活用し二学期から進路への意識を高めることができたが、具体的な成績目標や行動目標を立てるところまで指導できなかった。また、成績不振者に対して、目標設定や日々の学習活動のサポートはできなかった。来年度、成績不振者だけでなく上位者や進路決定者へ向けて学習活動をサポートしていきたい。</p> <p>読書記録は実施し、来年度最初の1分間スピーチで読書に関するスピーチを実施する予定である。</p>	B
第3学年 (3年学年会)	社会が求める人材の育成	ポートフォリオの継続と活用	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等を通して、課題解決に向けた企画力、実行力を育成する。 終礼時にグループワークを行い、対話する機会を設け、価値観の異なる相手と相互に認め合い、学び合う姿勢をもたせる。 進路決定後講座を開講し、相手をよく理解して自己の考えを明確に伝えるための知識や教養を身につけさせる。 学校行事や進路決定後講座を利用し、様々なことにチャレンジさせ、成功体験や失敗経験を活かす力を育む。 	<p>ポートフォリオを継続して行い、行事があるたびに記録を取って蓄積させた。それらの考察や反省を通じて、学んだことや身に付けた力、経験などを振り返り、自覚を伴ってそれぞれの試験に活かすことができた。</p> <p>新型コロナウイルスの流行により、就職日程が大幅に変更されたが、保護者会や生徒面談を通して進路を真剣に考えさせることができた。</p> <p>進路決定後に様々な分野の講座を開き、知識や教養を身につけさせた。しかし、例年と比べて進路決定する時期が遅く、内容を充実させることができなかった。</p> <p>生徒の活動の軌跡を残すことは、進学就職共に価値はあったと考えられる。</p>	B